

株式会社 ファミリーマート 御中

タイ王国  
安心・安全な学校作りのための子ども参加型防災学習

第3四半期報告書(2015年11月～2016年1月)



2016年2月  
公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

 **Save the Children**  
JAPAN

## 1. 事業概要

事業名	安心・安全な学校作りのための子ども参加型防災学習
対象国・地域	タイ王国 5 地域(北部、東北部、中部、東部、南部)の小学校 50 校
事業期間	2015 年 5 月 1 日～2016 年 4 月 30 日
報告期間	2015 年 11 月 1 日～2016 年 1 月 31 日
予算	10,000,000 円
受益者	直接裨益者: 生徒 250 人、教員研修パイロット校の教員 50 名 間接裨益者: 生徒 10,000 人(200 名×50 校)、 教師(対象校 50 校の校長)50 名
事業目的	安心・安全な学校作りの枠組みにおける教員の防災能力強化と子ども主体の防災学習の促進を目指す

## 2. 活動進捗

今期は主に、子ども参加型防災学習の一環として実施された防災エッセイコンテスト作品の選考や、その表彰式ならびに防災のための革新的なアイデア展示会の準備などを実施しました。

### 【教員向けの活動】

#### 活動 1. 教員研修パッケージの作成を通じ、教師が安心・安全な学校作りの枠組みを実践するための能力を強化する

教育省の基礎教育委員会との協働の下、セーブ・ザ・チルドレンがメンバーとなっている「安全な学校ネットワーク<sup>1</sup>」は学校教師向けの安全な学校研修パッケージの開発を進めています。ネットワーク内での協議の結果、まずは教育省基礎教育委員会が管轄する公立小学校で現在行われている防災学習の内容と実施状況、そしてその有効性を検証するための調査（「安全な学校調査」）が必要という結論に至りました。現在、基礎教育委員会やユニセフ、他のパートナー団体と共に調査実施にかかる準備に取り掛かっています。今後、この調査で得られた情報を基に教材の内容が検討されると同時に、特に防災教育が求められる地域や学校が検討される予定です<sup>2</sup>。

また、2015 年 12 月 16～17 日にはカンボジアのプノンペンにて、「“安心・安全な学校作り”とその運営に関するアセアンの共通枠組み<sup>3</sup>」への理解を深め、目標に向けた行動を起こすための会議

<sup>1</sup> セーブ・ザ・チルドレン、ワールドビジョン、プラン・インターナショナル、ユニセフ、国際赤十字赤新月社、Right to Play や他の国内 NGO、そしてタイ赤十字などによって構成されています。当ネットワークは、教育現場における防災関連事業を実施する国際・国内 NGO に対し、事業ツールや戦略、アイデアを提供していく役割を担っています。

<sup>2</sup> 防災教育の専門家を招いての生徒と教師を対象としたフォーカス・グループ・ディスカッションはこれらの防災教育に関する調査のデータ収集の過程で行う予定です。

<sup>3</sup> 教育における様々な危険からのリスクを削減するための国際的なアプローチ。「安心・安全な学校作りの 3 つの柱」が定められており、①安全な学習設備の構築、②学校における災害管理、③リスク削減・レジリエンス教育、と定義されています。当アプローチの目標は、①学校において教師や生徒を傷害から守ること、②考えられる危険や脅威に直面した際にも教育活動を継続できるための計画をしておくこと、③教育分野の投資

が開催され、アセアン5か国（タイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）の関係者が一堂に会しました。タイの教育省と内務省防災減災局スタッフ代表はこの会議に参加し、枠組みへの理解をより深めると同時に、現在タイで使用されている防災カリキュラムや防災教育教材を参加者に共有しました。

## 【子ども向けの活動】

### 活動2. 安心・安全な学校作りのための枠組みをサポートする子ども参加型の防災学習

子どもたちが防災について学ぶことは、「安心・安全な学校作りの枠組み」の中の3つの柱の中の1つである「リスク削減・レジリエンス（災害に対する強靭性）を高める教育」の必須の構成要素となる活動と位置付けられています。本事業では「防災ワークショップ（2015年10月開催済み）」、「防災エッセイコンテスト」、「防災のための革新的なアイデアコンテスト」の3つの活動を通じて子どもたちの防災学習を促進しています。

#### 2-1. 「防災エッセイコンテスト」の実施

「防災エッセイコンテスト」に向け、2015年9月～12月にかけて、教育省基礎教育委員会、防災減災局、「安心・安全な学校ネットワーク」、タイ赤十字の協力を得ながら、基礎教育委員会が管轄する小学校を対象に作品の募集が呼び掛けられました。結果、合計112校より、313作品（小学生部門161作品、中学生部門152作品）の応募がありました。選考の基準を定めた上で、セーブ・ザ・チルドレンの他、防災減災局、タイ赤十字、大学のタイ言語学部より各専門家を迎えて、優秀作品を選抜しました。また、タイのセントラルファミリーマートのスタッフの皆様のご協力を得て、「ファミリーマート特別賞」の作品を選抜して頂き、スタッフの皆様の事業への理解を深めていただく機会とすることができました。これらのエッセイの表彰式は、2016年2月6日に「防災のための革新的なアイデア展示会」と併せて同時に開催されました。これら二つのイベントを同時開催にすることで、より多くのメディア関係者と一般市民の関心を集めることができました。表彰された生徒たちには、ファミリーマートのロゴが入った賞状と盾が贈られました。（表彰作品は添付資料をご覧ください。）

#### 2-2. 「防災のための革新的なアイデア展示会」の実施

「防災のための革新的なアイデア展示会」に向けた準備は、バンコク芸術文化センター(BACC)の協力を得ながら進められ、2016年2月2日～14日に展示会が開催されました。優れたアイデアとして、1)懐中電灯機能が付いた帽子、2)救援道具付きのライフジャケット、3)地図付きピクニックチェアが選ばれ、これらのアイデアを基に試作品が製作され、展示されました。

また、当展示会は「対話」を運営テーマとしており、展示会場にはミニブースを設置し、特に

---

を確保すること、④教育を通じてリスク削減・レジリエンス（災害に対する強靭性）を強化すること、と提案されています。

週末に来場した一般市民の子どもたちを対象に防災に関するアイデアを考え、形にしてもらう機会を提供するなど、工夫を凝らしました。セーブ・ザ・チルドレンが実施している防災事業の全体像を来場者に紹介するコーナーなども設置されました。

※ 「防災エッセイコンテスト」と「防災のための革新的案アイデア展示会」は2月初旬に開催されたことから、次期の報告書でより詳しくご紹介できる予定ですが、下記のサイト（facebook）にて、当日の開催の様子が紹介されております。なお、“IKidsupai”とは、“防災に対して、革新的なアイデアで備えをしている子どもたち”という意味です。セーブ・ザ・チルドレン・タイは2014年より、事業の進捗について広くタイの一般市民に公開しています。（タイ語でのみ対応）

<https://www.facebook.com/IKidsupai/>

### 3. 今後の活動予定（★はファミリーマート社員様の参加が可能な活動です。）

活動内容（2016年）	2月	3月	4月
<b>1. 安心・安全な学校作りのための教員研修パッケージの作成</b>			
1-1.教材開発・普及のための協議 （安全な学校ネットワーク関係者、アセアン防災・緊急対応協定関係者、教育省関係者）	✓		
1-2.タイ全土における学校における教防災育の現状調査（「安全な学校調査」）のための質問表の作成	✓	✓	
1-3.調査対象地域と学校の特定（教育省と協働）		✓	
1-4.データ集積（フォーカス・グループ・ディスカッション等含む）と分析にかかるワークショップの開催		✓	✓
1-5.「安全な学校調査」報告			✓
<b>2. 安心・安全な学校作りのための枠組みをサポートする子ども参加型の防災学習</b>			
2-1.「防災エッセイコンテスト」  （★2月6日開催）	★ ✓		
2-3.「防災のための革新的なアイデア展示会」  （★2月2～14日開催）	★ ✓		
<b>3. 報告書、会計報告の作成</b>		✓	✓

#### 4. 活動写真



関係メンバーと学校教師の間で「安全な学校研修パッケージ」の作成に関する協議を実施



防災エッセイコンテスト：長時間に及んだ選考会の様子（写真左）と、  
「防災のための革新的なアイデア展示会」会場で開催された表彰式の様子（写真右）



防災のための革新的なアイデア展示会にて：防災バックの作り方を講習（写真左）  
相互学習用ミニブースでの活動の様子（写真右）